

報告番号 2 号
令和5年12月 6日

根室市議会議長 様

無所属 西田 浩一

政務活動報告書

区 分	<input type="checkbox"/> 調査研究 <input type="checkbox"/> 研 修 <input type="checkbox"/> 広 報 <input type="checkbox"/> 広 聴 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input checked="" type="checkbox"/> 北方領土対策活動 <input type="checkbox"/> 会 議
活 動 テー マ・目的等	北方領土返還要求中央アピール行動
期 間	令和5年11月30日(木)～12月 2日(土)
参加者氏名	西 田 浩 一
応 対 者	北方領土隣接地域振興対策根室管内市町連絡協議会(会長 石垣 雅敏根室市長) 元島民らや全国都道府県民会議など総勢 500 人が参加
場 所	日比谷公園音楽堂から鍛冶橋交差点付近1.6キロ区間 新宿駅西口地下広場イベントコーナー
行 程	11月30日(水)根室市→根室中標津空港→羽田空港→麹町(ホテル・ルポール麹町) 12月 1日(木)アピール行進、北方領土展 2016 in Tokyo(新宿駅西口地下広場) 12月 2日(金)麹町(ホテル・ルポール麹町)→羽田空港→根室中標津空港→根室市
内容・成果	<p>昨年引き続き、北方領土返還要求中央アピール行動に参加した。アピール行進には、工藤彰三内閣府副大臣や地元の鈴木貴子衆議、伊東良孝衆議、鈴木宗男参議、根室管内の町長、町議会議員、姉妹都市の黒部市から武隈市長や市議団、元島民や根室管内から約70人、さらに東京根室会の関係者や全国の北方領土返還要求都道府県民会議など総勢500人が参加。出発式では、北隣協会長の石垣市長が「先達の遺志を継ぎ、北方領土返還の強い意志を、ここ東京の地から全国に発信しながら行進していこう」と力強く訴えたあと、工藤内閣府副大臣、辻清人外務副大臣が参加者を激励。元島民を代表して鈴木咲子さん(84歳)が「返還要求運動の灯を消すことなく邁進し、北方領土問題の早期解決に向け力強く行進する」と決意を表明した。このあと、羅臼町の湊屋稔町長の号令の下、日比谷公園音楽堂前を出発。</p>  <p>ゴールの鍛冶橋交差点までの1.6キロを行進した。 47都道府県の総意を示す都道府県旗を掲げながら「北方領土を返せ!」「北方領</p>

土交渉を再開しよう！」「北方墓参を早期に再開しよう！」など声を張り上げ、早期返還の願いを訴えた。また、新宿駅西口地下広場で開かれた「北方領土展 2023 in Tokyo」を視察。出店者や巧みな話術で北方領土問題を啓発する嘶家の三遊亭金八師匠を激励した。

ロシアのウクライナ侵攻で平和条約交渉が中断するなか、元島民の思いを全国に発信することができて良かったと思う。この啓発活動は、戦後間もない昭和20年12月1日に当時の安藤石典・根室町長が、連合国軍総司令部（GHQ）のマッカーサー元帥に「北方領土を米軍の占領下に置いてほしい」との陳情書を提出したことになみ開催。今回16回目を数える。平均年齢87歳を迎える元島民にとって1.6キロの道のりは負担も大きいのではないかと危惧している。沿道の人たちの反応も決して高いとは言い難く、スタート地点の日比谷公会堂が来年にも取り壊しの予定と聞き、来年度以降の開催場所など未定だが、全国に向けて発信する中央アピール行動は堅持しつつ、開催手法など見直す時期にあると思う。

今回の視察で姉妹都市である黒部市の市議や返還運動関係者、さらに元島民、後継者らと交流し、意見交換を行った。平和条約交渉の中断で、ビザなし交流など北方4島との交流が途絶え、北方墓参についても見通しがついていない。元島民の高齢化に鑑み、人道的見地から北方墓参の早期再開を強く望むとともに領土交渉の再開が見通せない現状、今できる残地財産の補償や隣接地域の振興など内政措置問題に対する取り組みを着実に進め、高齢化する元島民から返還運動を継承する後継者やそのリーダーとなる人材の育成が急務と感じた。

報告番号 1 号
令和 5 年 12 月 5 日

根室市議会議長 様

無所属 西田 浩一

政務活動報告書

区分	■調査研究 □研修 □広報 □広聴 □要請・陳情活動 □北方領土対策活動 □会議
活動テーマ・目的等	広島県福山市立常石ともに学園への視察
期間	令和5年11月21日(火)～11月23日(木)
参加者氏名	西田 浩一
応対者	福山市教育委員会学事課 甲斐 真由子 企画研修担当次長 福山市立常石ともに学園 甲斐 和子 校長 同 坂口 憲治 教頭 同 福永 恭子 教諭
場所	広島県福山市沼隈町常石984-1 福山市立常石ともに学園
行程	11月21日(火)根室市→釧路空港→羽田空港→広島県福山市 11月22日(水)福山市立常石ともに学園 11月23日(木)福山市→羽田空港→釧路空港→根室市
内容・成果	<p>花咲港小学校がインクルーシブ教育（障害など少数派の子供たちも多数派の子供たちと同じ学校に通って学ぶ権利を保障する考え）の推進に向けて導入したイエナプラン教育について、全国で初めて公立学校としてイエナプラン教育認定校となった常石ともに学園を視察した。</p>  <p>イエナプラン教育は、一人ひとりの子供をその子らしく最大限の可能性（人としての多様性を重視した）を引き出して育てることを目指した子育てビジョンで、異年齢で構成されたクラスで、個を尊重しながら自立と共生を学ぶオープンモデル型の学校教育。ともに学園では1年生から3年生までの低学年グループと4年生から5年生までの高学年グループとしてクラスを構成している。</p> <p>当日は、全国の教育委員会や大学など複数の視察団と合同で視察が行われ、ビデオで取り組みの紹介があったあと、2班に分かれて校内見学、その後、質疑が行われた。</p>

ともに学園に対する関心は高く、市外からの入学希望者もある。市立の特認校という性格上、市内全域から入学することが可能で、定員を超えた場合は抽選となる。中には同校の学区内の児童であっても抽選に漏れ、同学園に入学ができずに同じ学区内の義務教育学校に通う子供もいるという。

学習課題の設定は、高学年であれば、一週間の日程を作成し、これに沿って子供たちが自主的に計画を立てる。また、低学年であれば一日ごとに設定し、自分たちのペースで学習を進めるなど試行錯誤しながら取り進めている。

こうした新たな取り組みの中、教員の意識付けについて関心があったが、甲斐校長は「我々はイエナプランを実践しているという意識ではなく、子供の学びをどのようにしていくのがいいのかということに重きを置いている。これはどこの学校でも教員でも同じであると考えている」とし、人事異動などでも特段の配慮はないという。

また、イエナプラン教育に馴染んだ子供が中学校に進学してから戸惑うのではないかと感じていたが、市全体で「福山100NEN教育」という理念を掲げ「自立、共生、自己実現」を目指すべき3つの姿勢として教育が行われている。このため「学びを大事にするという軸をすべての学校、教員で共有し、スムーズにいくよう取り組んでいる」（甲斐次長）としていた。

子供たちの個を重視する考えのもと、異年齢でのグループ分けに何らかの配慮があるのか聞いたが「特段の配慮はない。基本的には同一学年では入れ替えはなく、入学、低学年から高学年、そして卒業のタイミングで出入りがある」（甲斐次長）とのことだった。



校舎は義務教育学校設置で空いた校舎を活用。内装など改修は地域の企業の寄付で賄われている。また、学校行事に対する地域の関心も高く、全体に視察を通じ、地域の教育に関する理解が深いことを痛感した。こうした素地のなかで、準備期間を十分確保し、取り組んでいる。また、開校にあたり教頭先生が中心になって学校新聞（学校だより）を作成し、地域住民に配布するなど理解

促進を図っている。

根室市の場合、特別支援学校の誘致に端を発し、現在のインクルーシブ教育推進のためイエナプラン教育を導入したものだが、福山市の「福山100NEN教育」という理念のように根室の教育の大方針を今一度整理し、新しい言葉でもある「インクルーシブ教育」「イエナプラン教育」などに対する父母や地域、市民の理解を深める取り組みが必要であると感じた。